

雑芸員のお仕事
博物館の展示 その2
柴 正博

今回は、展示設計と施工について、その全体をお話しします。博物館全体または特別展などの展示室全体の展示製作設計については、計画段階の設計にはじまり、実施段階の設計と施工のお仕事があります。

1. 計画設計

計画設計にあたっては、①展示テーマの設定、②展示ストーリーと展示シナリオ作成、③展示物および展示ケースの配置（動線計画）、④全体の展示デザインと色彩設計、⑤展示ケースとステージの設計（視線計画）、⑥照明の配置設計、⑦電気配線・空調など環境設計、⑧予算計画など含めて順次総合的に設計していきます。

①**展示テーマの設定** 何を博物館で見てもらいたいのかという、最も根本的な問題です。これが明らかになっていなければ、展示の意味がありません。展示テーマの設定は、観覧者に伝えるべき博物館側の思想的ドメインであり、個々の展示テーマやストーリーの基礎にあるものです。

②**展示ストーリーと展示シナリオ作成** 展示テーマにしたがって、展示ストーリーと展示シナリオを作成します。どのような内容を、どのような展示物で、どのような順に展示するかということです。これには、どのような展示手法でストーリーを展開するかということも含まれます。この作成には、できれば多くの人の協力を得てチームアプローチによる展示開発ができればと思います。

③**展示物および展示ケースの配置（動線計画）** 展示空間や部屋の配置にしたがい、動線計画と展示物および展示ケースの配置を設計します。この場合、建築基準および消防法に抵触しないよう配慮する必要があります。

④**全体の展示デザインと色彩設計** 展示の全体としてのデザインと色彩をとりあえず決定し、展示物の配置なども含めた各展示室のパース画（立体的なデザインの図面 図1）を作成します。これによって、展示空間の全体的なイメージがつかめます。

⑤**展示ケースとステージの設計（視線計画）**



図1 計画設計時の東海大学自然史博物館のパース画のひとつ

視線計画にのっとり具体的な展示ケースや展示ステージの設計を行い、展示物や解説パネルの内容や配置などを決定します。

⑥**照明の配置設計** 展示物の配置にともない、どのような照明を、どこにどのように配置するかを設計します。

⑦**電気配線・空調など環境設計** 照明や展示ケースの配置が決定することにより、電気配線や空調器配置などを決定します。電気容量、電気コンセント、配線ダクトなどの基本設備については、清掃や展示変更・追加など考慮して、多めにまたは追加できるように設置計画を行います。既存の建物や展示室を利用する場合、これらの設備配置がすでに決まっているので、それに合わせてまたは一部変更して展示設計を行います。

⑧**予算計画** 計画設計にしたがって、展示を製

作するための見積もりを出し、予算とつぎ合わせて設計変更などを行います。

2. 実施設計

計画設計にしたがい、③以下のより具体的な実施のための設計や予算見積もりを立てます。まず、詳細な展示シナリオ（図2）を作成し、具体的な展示設計を行い展示場の設計図を作ります。実施設計については、施工する業者などを決定して、業者と入念に打ち合わせを行い、詳細な展示や展示具、電気配線等の計画ののっとり正確な設計図を作成してもらいます。同時に個々の展示パネルやラベル、作成する展示物のデザインの設計を行い、各コーナー、各展示パネルのタイトル、コピーなどの文章やイラスト、写真なども作成・用意し、決定します。そ

して、施工期間や完成時期も決定し、施工に係わる問題や、広報・人員配置など展示以外の展示開始に関連する運営計画などについても検討を行います。

3. 施工

実施設計にしたがって、展示設置工事および展示製作などを行います。実際に工事や展示製作になると、計画や設計と異なる場合やいろいろなトラブルも生じ、そのつど調整や設計変更をして対処します。このような施工管理の仕事も行いつつ、展示パネルの校正や展示資料の配置など学芸員自らが行わなくてはならない仕事も多くあります。とくに、展示資料や展示パネルの設置作業は、学芸員が主体となって行わなくてはならない展示の仕上げ作業になります。

自然史博物館 移設・リニューアル プラン

新たな自然史博物館のテーマ：生物の絶滅と地球環境

大テーマ	中テーマ	アイテム	形態	展示形態	展示手法
0	自然史博物館に入ってみよう！	東海大学自然史博物館には何があるのだろうか。観覧者へ興味をもたせ、導入のきっかけをつくる。			
0-1	恐竜に会おう！	恐竜はかつて地上にすんでいた生物で、自然史博物館では過去の生物や地球のすがた、その生い立ちを学ぶことができます。			
		タルボサウルス	造形	野外展示	パネル解説
		ケチオサウルス	造形	野外展示	パネル解説
0-2	恐竜化石の発見	恐竜は過去の生物ですが、それらは地層から発見される化石によって私たちはそれらが生きていたことを知ります。			
		トリケラトプスの頭骨の発見	レプリカを砂に埋める	屋外から見える展示	パネル解説
1	生命の誕生と地球環境の変遷	今から35億年前に生命が誕生し、地球の生物の長い歴史がはじまりました。私たち人類は、その長い歴史の上に存在し、地球環境の恩恵を受けて現在という時空に生かれています。私たち人類はこれまでの地球環境と生物の変遷の中で生まれてきた生物という認識で、過去の地球環境と生物の変遷を再認識する必要があります。			
1-1	生命の誕生	地球は生命が存在する星で、その生命は35億年前に現われ、地球急激の変遷にもなつてさまざまな生物が現われました。			
		生命の誕生	イメージ・メッセージ	壁面・天井・床	全体としてイメージされる
		ディノニクス	全身骨格	展示ケース	
1-2	現在へのプロローグ	過去から現在へ長い長い時間の旅が始まります。生命の誕生から30億年がたつと、生命がつくりだした酸素によって、生物は爆発的に発展して、いろいろな生物モデルが生み出され、それらのうち限られたモデルがその後の時代に生きつづけ、さまざまな生物を作り出していきます。			
		ストロマトライトの海	イメージイラスト	コルトン	エスカレータ
		カンブリア紀の生物出現	イメージイラスト	コルトン	エスカレータ
		バージェス動物群の生物	イメージイラスト	コルトン	エスカレータ
		無脊椎動物の発展	イメージイラスト	コルトン	エスカレータ
		脊椎動物の発展	イメージイラスト	コルトン	エスカレータ
2-1	古生代のさまざまな生物とその絶滅	古生代には現在にも増してさまざまな生物がいましたが、古生代末にそれらの多くは絶滅しました。サンゴや魚なども現在見られるものの多くは、古生代のものとは異なり、中生代になって新たに現われ発展してきたものです。			
		無脊椎動物のいろいろ	三葉虫・サンゴ・直角貝・魚類	標本	展示ケース
		シダ植物		標本	展示ケース
		両生類		標本	展示ケース
2-2	哺乳類型爬虫類の発展と絶滅	哺乳類型爬虫類は、古生代末のペルム紀に現われたもので、現在の哺乳類のプロトタイプとして全世界の大陸で化石が発見されるほど発展しました。しかし、中生代三畳紀のはじめの地層から化石が発見されるものの、その後は化石が発見されず、地球環境の変化と恐竜の出現によって、その生態的位置を恐竜に受け渡し、絶滅しました。			
		爬虫類（無弓類）	スケトサウルス	全身骨格	ステージ
		哺乳類型爬虫類（単弓類）	ディメトロドン	全身骨格	ステージ
		エステメノスクス・イノストランケン	ア・ディキノドン	頭骨	展示台
		爬虫類の系統		解説パネル・モデル	展示台
					頭骨モデルの作成
3	恐竜の世界	中生代三畳紀の終わりに恐竜の仲間が出現しました。彼らは、二足歩行のできる爬虫類として運動能力に富み、哺乳類型爬虫類をしりぞけて陸上の支配者となりました。温暖だった中生代三畳紀末から白亜紀末まで巨大な体をもつ種類も多く、たいへん栄えました。			
3-1	恐竜とは	恐竜とは恐竜と呼ばれる動物は、竜盤類と鳥盤類に含まれる陸上生活に適した爬虫類で、もともと二足歩行できる仕組みをもつため腰骨や大腿骨の接合部などに他の動物と異なる特徴があります。			
		二足歩行と四足歩行		パネル状ゲート	抜き型を通りぬけてみる
		恐竜の骨化石を掘り出そう	大腿骨	展示台 (box)	大腿骨をウレタン片に埋め
		ディプロドクス	全身骨格	ステージ	
		ステゴサウルス	全身骨格	ステージ	
		恐竜の腰と足の特徴		解説パネル・モデル	展示台
		竜盤類と鳥盤類のちがい		解説パネル・モデル	展示台

図2 東海大学自然史博物館の移設時の展示シナリオ案の一部